

〔日本書紀五崇神〕十年九月、彥國葺射、埴安彥、中智而殺焉、其軍衆脅退、則追破於河北、而斬首過半、屍骨多溢○中、乃脫甲而逃之、知不得免、叩頭曰「我君」。

〔日本書紀二十五孝德〕天豐財重日足姬天皇○皇、四年六月庚戌、中大兄○天智退語於中臣鎌子連、中臣鎌子連議曰「古人大兄殿下之兄也、輕皇子○德、殿下之舅也」○下。

〔萬葉集十二古今相聞往來歌〕寄物陳思、君者不來、吾者故無立浪之敷和備思、如此而不來跡也。

〔古今和歌集一春〕仁和のみかど○光、みこにおまし、ける時に、人にわかなたまひける御うた、君がため春の野に出て若なつむ我衣でに雪は降つ、

〔今昔物語二十八〕近衛舍人共稻荷詣重方值女語第一、女ノ答フル様○中、極テ愛敬付タリ、重方ガ云ク、我君々々、賤ノ者持テ侍レドモ○中、心付ニ見エム人ニ見合ハ、其ニ引移ナムト、深ク思フ事ニテ、此ク聞ユル也ト云バ○下。

〔日本書紀十二履中〕八十七年○仁德、正月、大鷦鷯天皇崩○中、太子○履中傳告弟王○正曰「我畏仲皇子之逆、獨避至於此、何且非疑汝耶」○中、瑞齒別皇子啓太子曰「大人何憂之甚也、今仲皇子無道、群臣及百姓共惡怨之」○下。

〔日本書紀二神代〕故仍遣其子大背飯三熊之大人○大人此云志、〔日本書紀二十一用明〕二年四月丙子○子誤、物部守屋大連耶睨大怒、是時押坂部史毛屎、急來密語大連曰「今群臣圖卿、復將斷路」。

〔倭訓栞前編二十一〕ぬし○中、物語に人を稱して、某のぬしといふは後の事也、東鑑に主と書し、

多く尊ぶ詞と見えたり、ぬとうと通ず、大人をうしといふに同義なるべし、〔宇治拾遺物語二〕男ども女にいふやう○中、といひければ、この女わかきぬしたちは、げにあやし